科　目	自然科学概論	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	３２
		履修年次	１学年
		実施学期	１学期
教員名	米山乃生子	教員区分	一般教員

教科書	「歯科衛生士教本　化学　」（医歯薬出版株式会社） 「歯科衛生士教本　生物　」（医歯薬出版株式会社）
参考書	授業プリントは適宜配布・指示する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	一回一回の授業で知った事、感じた事や考えた事を専門分野の科目で活かせるようにしましょう。

科目の目標	歯科衛生士を目指す者として基盤となる自然科学分野の知識を習得する。
授業概要	一般的な理科分野と医療・生命科学分野をミックスした構成となっています。

日程

回　数	授業内容
1	地球と地球を取り巻く環境について知ろう。
2	人間を取り巻く物理的環境について知ろう。１「光・重力・気圧・水圧」
3	人間を取り巻く物理的環境について知ろう。２「温度・熱」
4	物質とは何だろう。
5	人間を取り巻く化学的環境について知ろう。１「空気」
6	人間を取り巻く化学的環境について知ろう。２「水」
7	生命の誕生と変遷について知ろう。
8	生命を構成する物質について知ろう。
9	細胞の機能について知ろう。
１０	微生物の種類とその特徴について知ろう。
１１	生殖と遺伝について知ろう。
１２	生物の環境に対する反応について知ろう。
１３	医療に関わる物質について知ろう。
１４	フッ化物の計算、薬液の希釈計算などの計算をマスターしよう。
１５	人口動態統計や歯科実態調査などの衛生統計に触れて日本の現状を知ろう。
１６	定期試験・定期試験の解答と解説

科　目	医療人間科学Ⅰ	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	３２
		履修年次	１学年
		実施学期	１学期
教員名	那須　昭夫	教員区分	一般教員

教科書	『歯科衛生学辞典』（永末書店） 他、適宜指示する。
参考書	授業資料は適宜配布・指示する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	歯科衛生士を目指す学生として、適切な国語表現を身につけられるよう努めること。

科目の目標	社会人・職業人としてのコミュニケーション能力を高めるとともに、分かりやすく伝わりやすい表現の技法を習得し、専門用語を含んだ文章の読解力・表現力を身につける。
授業概要	コミュニケーションの諸技能、まぎれのない用語の使い方、伝わりやすい文章表現の技法、および着実な読解力を、講義と練習問題を通じて身につける。

日程

回　数	授業内容
1	社会人・医療者としてのことばの用法（1）
2	社会人・医療者としてのことばの用法（2）
3	社会人・医療者としてのことばの用法（3）
4	社会人・医療者としてのことばの用法（4）
5	社会人・医療者としてのことばの用法（5）
6	伝わりやすい表現の技法（1）
7	伝わりやすい表現の技法（2）
8	伝わりやすい表現の技法（3）
9	伝わりやすい表現の技法（4）
１０	伝わりやすい表現の技法（5）
１１	伝わりやすい表現の技法（6）
１２	伝わりやすい表現の技法（7）
１３	読解とコミュニケーションスキル（1）
１４	読解とコミュニケーションスキル（2）
１５	まとめ
１６	定期試験

科　目	健康社会学	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	３２
		履修年次	１学年
		実施学期	１学期
教員名	加藤　美生	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	授業プリントは適宜配布・指示する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	日常的に広く周囲に目を向けて、健康や医療に関する情報を取得すること。

科目の目標	健康や病気と社会とのかかわりについて基礎的理解を深めるのと同時に、医療者として市民が健康や病気への積極的に対峙する力を育むのにどのように支援するのかについて理解する。
授業概要	歯科衛生士の役割や医療特有のコミュニケーションについて概説する。

日程

回　数	授業内容
1	オリエンテーション、健康とは何か、コミュニケーションとは①人間関係
2	社会によりもたらされる健康と病気、コミュニケーションとは②役割と成分
3	健康づくりのためのヘルスコミュニケーション、コミュニケーションとは ③コツと落とし穴
4	健康づくりに必要なリーダーシップ、コミュニケーションとは④プロセスと確かめ
5	ライフステージ別の健康課題
6	アサーティブ・コミュニケーション
7	まとめ①
8	健康なまちづくり
9	健康な学校づくり
１０	健康な職場づくり
１１	健康な病院づくり
１２	健康な家庭づくり
１３	医療とメディア
１４	リスクコミュニケーション
１５	まとめ②
１６	定期試験

科　目	解剖学（口腔組織発生学含む）	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時間数	３２
		履修年次	１学年
		実施学期	１学期
教 員 名	南澤直子	教員区分	一般教員

教 科 書	「人体の構造と機能１　解剖学・組織発生学・生理学」 全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	特になし。授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	ただの暗記にとどまらず、より理解を深めるために自主的・積極的に授業に臨んで下さい。

科目の目標	今後学んでいく専門知識の基盤となる、人体の構造と機能に関する知識を身につける。
授業概要	人体の構造と機能を学習する。

日程

回　数	授業内容
1	人体の構造と機能を学ぶにあたって／細胞と組織
2	発生
3	骨格系　概説
4	骨格系　各部
5	筋と運動　概説
6	筋と運動　各部
7	筋と運動　運動
8	循環①　概説と心臓
9	循環②　動脈と静脈
１０	循環③　リンパ系・循環のまとめ
１１	神経系①　概説と神経系の構成
１２	神経系②　中枢神経
１３	神経系③　末梢神経
１４	伝導路・神経系のまとめ④
１５	まとめ
１６	定期試験／定期試験の解答と解説

科　目	生理学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	３２
		履修年次	１学年
		実施学期	１学期
教 員 名	熊澤　真理子	教員区分	一般教員

教 科 書	「人体の構造と機能１　解剖学・組織発生学・生理学」 全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）　　P7～12、P85～123、P171～242
参 考 書	特に指定しない。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	休まず出席すること。授業終了後、練習問題を復習すること。

科目の目標	人の基本的構造や機能を理解し、臨床に必要な生理学の知識を習得する。
授業概要	授業を通して国家試験に頻出する知識を確認する。

日程

回　数	授業内容
1	生理学とは　・　体温　①
2	体温　②
3	血液　①
4	血液　②
5	排泄　①
6	排泄　②
7	内分泌　①
8	内分泌　②
9	生殖
１０	消化・吸収　①
１１	消化・吸収　②
１２	循環
１３	呼吸
１４	感覚　①
１５	感覚　②
１６	定期試験・解答・解説

科　目	口腔生理学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時間数	１６
		履修年次	２学年
		実施学期	１学期
教 員 名	守谷　友二朗	教員区分	一般教員

教 科 書	「歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	休まず出席し、復習をしっかり行うこと。

科目の目標	口腔顎顔面領域に現れる生命現象のメカニズムを学び、医療現場で遭遇する様々な病態に対する病因の理解とその解決力を養う。
授業概要	顎顔面口腔領域の感覚、咀嚼、吸啜、摂食・嚥下、発声、嘔吐など 生理的なメカニズムを学習する。

日程

回　数	授業内容
1	第３章　歯と口腔の感覚　～　第４章味覚と嗅覚（味覚まで）　P68～P81
2	第４章　味覚と嗅覚（嗅覚）　～　第５章咬合と咀嚼・吸啜（下顎の運動まで）P81～P93
3	第５章　咬合と咀嚼・吸啜（顎反射から）P93～P104
4	第６章　嚥下と嘔吐（嚥下と嘔吐に関わる構造～嚥下の概要まで）P105～P115
5	第６章　嚥下と嘔吐（嚥下時の食塊の動き～）P115～P123
6	第７章　発　声 P124～P135
7	第８章　唾　液 P136～P146
8	定期試験

科　目	口腔衛生学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	枝川　祥子・竹之内　茜	教員区分	一般教員

教科書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1　保健生態学　第3版」 全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参考書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	基礎となり実習へとつながっていくので休まず出席し、よく予習復習すること。

科目の目標	口腔内の情報収集の方法について理解できる。歯と口腔の健康と予防に関する基礎知識を習得する。
授業概要	口腔清掃指導に必要な知識と歯科疾患の予防方法を学習する。

日程

回　数	授業内容
1	口腔衛生管理に関わる指導①　（枝川）
2	口腔衛生管理に関わる指導②　（枝川）
3	口腔衛生管理に関わる指導③　（枝川）
4	口腔衛生管理に関わる指導④　（枝川）
5	口腔衛生管理に関わる指導⑤　（枝川）
6	口腔衛生管理に関わる指導⑥　（枝川）
7	口腔衛生管理に関わる指導⑦　（枝川）
8	口腔衛生管理に関わる指導⑧　（枝川）
9	口腔衛生管理に関わる指導⑨　（枝川）
10	歯科疾患実態調査、う蝕　（竹之内）
11	フッ素について①　（竹之内）
12	フッ素について②　（竹之内）
13	フッ化物の応用　（竹之内）
14	フッ化物の応用　（竹之内）
15	フッ化物局所塗布　（竹之内）
16	定期試験　定期試験の解答と解説　（枝川・竹之内）

科　目	病理学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教 員 名	山口　絢香	教員区分	一般教員

教 科 書	「疾病の成り立ち及び回復過程の促進１　病理学・口腔病理学」 全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	講師作成の配布資料
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	休まず出席すること。

科目の目標	疾病の原因・発症機序・進展および転帰を理解し、疾病の予防や治療の基礎となる知見を総合的に習得する。
授業概要	臨床で遭遇する全身疾患を講義や学習映像資料を通して学ぶ。

日程

回　数	授業内容
1	第１章　病理学序論と病因論 & 第２章　遺伝性疾患と奇形
2	第３章　循環障害　および　脳血管疾患
3	第４章　代謝障害と退行性病変
4	第５章　増殖と修復
5	第６章　炎症と免疫応答異常
6	第７章　腫瘍　COPD
7	総復習
8	定期試験

科　目	歯科衛生士概論Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	１６
		履修年次	２学年
		実施学期	１学期
教員名	小林　明子	教員区分	非常勤教員

教科書	「歯科衛生学総論」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参考書	講師作成によるプリントを配布
成績評価	定期試験にて評価する
留意事項	休まず出席し、歯科衛生士教本「歯科衛生概論」を必ず予習をして授業に臨むこと 課題のレポート提出に取り組むこと

科目の目標	医療の目的、倫理を理解し、歯科医療中での歯科衛生士の役割を歴史を通じて学ぶ 医療の中で必要とされる歯科衛生士を明確化し、その役割を理解する 専門職を目指すための目的意識を明確にできるように必要な知識の概要を学修する。
授業概要	「歯科衛生学総論」教本を中心に臨床の現場を交えながらスライドにて解説する 歯科衛生士の役割、理念、歯科臨床における歯科衛生活動など総合的に学習する

日程

回　数	授業内容
1	健康の概念について 歯科衛生士について 歯科衛生士の歴史的背景と役割の変化
2	歯科衛生士法 歯科衛生士業務(業務の独占、名称の独占)について 医療倫理について
3	予防の概念 歯科衛生活動に必要な知識
4	歯科衛生とリスク管理 医療安全、感染予防対策
5	歯科衛生過程について（演習含む）
6	チーム医療、多職種との連携について
7	まとめ　解答解説
8	定期試験

科　目	歯科予防処置Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	１６
		履修年次	１学年
		実施学期	１学期
教 員 名	デンタルサポート株式会社 城 明妙	教員区分	一般教員

教 科 書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	適宜指示する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	基礎知識となるのでよく復習すること。休まず出席し、積極的に講義に臨むこと。

科目の目標	正常な歯、歯周組織と口腔の構造について理解できる。 歯と口腔の健康と予防に関する基礎知識を習得する。
授業概要	専門基礎分野の知識と関連づけながら口腔の構造、う蝕、歯周病の概要を知り、歯科予防処置について学ぶ。

日程

回　数	授業内容
1	歯・口腔の健康
2	歯・口腔の付着物・沈着物
3	フッ化物によるう蝕予防①
4	フッ化物によるう蝕予防②
5	フッ化物によるう蝕予防③
6	フッ化物によるう蝕予防④
7	まとめ
8	定期試験　解答と解説

科　目	歯科保健指導Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	１６
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教 員 名	大谷　悦世	教員区分	一般教員

教 科 書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み１　保健生態学　第３版」 全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	授業をしっかり聞き、予習復習を行い、次の授業に役立てること。休まずに出席すること。

科目の目標	歯科保健指導とは何かを理解し、歯・口腔の健康の維持、増進するために必要な基礎知識を身につける。
授業概要	歯科保健指導を実施するために必要な基礎知識を習得する。

日程

回　数	授業内容
1	歯科保健指導のための基礎知識①
2	歯科保健指導のための基礎知識②
3	歯科保健指導のための基礎知識③
4	歯科保健指導のための基礎知識④
5	歯科保健指導のための基礎知識⑤
6	歯科保健指導のための基礎知識⑥
7	歯科保健指導のための基礎知識⑥
8	定期試験 / 定期試験の解答と解説

科　目	歯科診療補助Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	深澤　佳世	教員区分	一般教員

教科書	「歯科診療補助論　第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「第４版イラストと写真でわかる歯科材料の基礎」（永末出版）
参考書	「スマホで学ぼう！歯科診療の補助コンプリートBOOK　共同動作編Part1」（一世出版） 「スマホで学ぼう！歯科診療の補助コンプリートBOOK　共同動作編Part2」（一世出版）
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	歯科診療補助実習と併せて進めていくため、総合的に学習すること。 忘れ物をしないよう心掛けること。予習復習をしっかりと行い授業に臨むこと。

科目の目標	各診療科目において使用する、歯科材料・歯科器具の用途を理解、習熟し、臨床の場で対応できる知識を身につける。
授業概要	専門的な歯科診療補助のために基礎知識を習得する。

日程

回　数	授業内容
1	歯科診療における基礎知識①
2	歯科診療における基礎知②
3	歯科診療における基礎知識③
4	歯科材料の基礎知識①
5	歯科材料の基礎知識②
6	歯科材料の基礎知識③
7	歯科材料の基礎知識④
8	定期試験と解答、解説

科　目	歯科診療補助実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	３２
		履修年次	１学年
		実施学期	１学期
教 員 名	深澤　佳世	教員区分	実務教員

教 科 書	歯科診療補助論　第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「第４版イラストと写真でわかる歯科材料の基礎」（永末出版）
参 考 書	「スマホで学ぼう！歯科診療の補助コンプリート BOOK　共同動作編 Part1」（一世出版）
成績評価	実技試験で評価する。
留意事項	歯科診療補助Ⅰと併せて進めていくため、総合的に学習すること。 忘れ物をしないよう心掛けること。予習復習をしっかりと行い授業に臨むこと。

科目の目標	各診療科目において使用する、歯科材料・歯科器具の用途を理解、習熟し、臨床の場で対応できる知識を身につける。
授業概要	専門的な歯科診療補助のために基礎知識を習得する。

実務経験	歯科衛生士の業務に４年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に基本的な臨床力を身につけさせる。

日程

回　数	授業内容
1	実習室の使用方法と身だしなみについて　歯科診療における基礎知識①
2	歯科診療における基礎知識②
3	歯科診療における基礎知識③
4	歯科診療における基礎知識④
5	歯科材料の基礎知識①
6	歯科材料の基礎知識②
7	歯科材料の基礎知識③
8	歯科材料の基礎知識④
9	歯科材料の基礎知識⑤
１０	歯科材料の基礎知識⑥
１１	歯科材料の基礎知識⑦
１２	歯科材料の基礎知識⑧
１３	歯科材料の基礎知識⑨
１４	歯科材料の基礎知識⑩
１５	歯科材料の基礎知識⑪

科　目	口腔解剖学 （口腔組織発生学を含む）	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時間数	３２
		履修年次	１学年
		実施学期	２学期
教 員 名	中尾　正	教員区分	一般教員

教 科 書	「歯・口腔機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版社）
参 考 書	基本のきほん　摂食嚥下の機能解剖　阿部伸一　著（医歯薬出版社）
成績評価	定期試験にて評価する
留意事項	教科書を中心に予習、復習を行い、国家試験合格のための基礎学力をつけること。

科目の目標	歯科衛生士にとって必要な口腔解剖学・口腔組織発生学の知識を習得する。
授業概要	歯科衛生士にとって必要なポイントを中心に講義形式で解説する。

日程

回　数	授業内容
1	骨学１：頭蓋骨（P18～34）
2	骨学２：下顎骨、顎関節（P30～34，42～44）
3	筋学：表情筋、咀嚼筋、舌骨上筋（P34～42）
4	脈管学：動脈、静脈、リンパ系（P45～56）
5	神経学１：神経の分類、自律神経（P56～67）
6	神経学２：脳神経 12 対（P56～67）
7	口腔内部の解剖（P10～18）
8	摂食嚥下の機能解剖
9	鰓弓と口腔の発生（P2～9）
１０	歯の発生学：先行歯の発生（P208～217）
１１	歯の組織学１：歯の構造（P218～239）
１２	歯の組織学２：歯周組織の構造（P236～249）
１３	歯の組織学３：歯肉（P246～251）
１４	口腔解剖学総復習、試験対策練習問題
１５	組織発生学総復習、試験対策練習問題
１６	定期試験/解答・解説

科　目	歯牙解剖学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	１６
		履修年次	１学年
		実施学期	２学期
教 員 名	山口　絢香	教員区分	一般教員

教 科 書	「歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	講師作成による配布資料。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業に必要な物品を持参する。毎回手鏡を持参すること。

科目の目標	歯科医療の基本となる歯牙の特徴を観察することにより習得する。
授業概要	歯科衛生士の業務の基盤となる口腔および歯牙に関して講義や演習で総合的に学ぶ。

日程

回　数	授業内容
1	歯牙の客観的観察・形態・種類・機能。歯の表示法・歯式
2	永久歯の形態の観察と機能（前歯）
3	永久歯の形態の観察と機能（小臼歯）
4	永久歯の形態の観察と機能（大臼歯）
5	乳歯の形態の観察と機能
6	歯列と咬合・特色のある歯の形態についての総復習
7	総復習
8	定期試験/解答・解説

科　目	口腔病理学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教 員 名	熊澤　真理子	教員区分	一般教員

教 科 書	「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1　病理学・口腔病理学」 全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業に教科書を必ず持ってくること。練習問題は、復習すること。 遅刻せず、休まず出席すること。

科目の目標	病理学で学んだ知識をもとに、歯科衛生士として臨床現場でみることになる口腔領域の疾病を学ぶ。
授業概要	歯科衛生士として必要なポイントを講義形式で解説する。

日程

回　数	授業内容
1	唾液腺の病変
2	口腔領域の奇形
3	顎骨の病変
4	口腔粘膜の病変
5	口腔癌
6	口腔領域の嚢胞と腫瘍
7	歯の発育異常
8	歯の損傷と着色・付着物
9	う蝕
10	象牙質・歯髄複合体の病態　①
11	象牙質・歯髄複合体の病態　②
12	歯周組織の病変　①
13	歯周組織の病変　②
14	口腔組織の加齢変化
15	総括
16	定期試験/解答・解説

科　目	微生物学 （口腔微生物学）	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時間数	３２
		履修年次	１学年
		実施学期	２学期
教 員 名	鈴木　敏彦	教員区分	一般教員

教 科 書	「疾病の成り立ち及び回復過程の促進２　微生物学」（医歯薬出版株式会社）
参 考 書	「標準微生物学　第 13 版」（医学書院）
成績評価	授業参加状況・提出物・定期試験を総合して評価する
留意事項	予習・復習に努めること

科目の目標	微生物（口腔微生物）とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態、生体の防御機構としての免疫、に関する基本的知識を修得する
授業概要	パワーポイントを用いた遠隔授業、配布資料を用いて授業を進めることにより、微生物と感染症に対する理解を深める

日程

回　数	授業内容
1	感染症の歴史、微生物の構造
2	微生物の増殖や生理
3	感染と感染経路
4	生体防御とワクチン
5	グラム陽性菌による感染症
6	グラム陰性菌による感染症
7	その他の細菌、細胞内寄生細菌、抗酸菌による感染症
8	真菌による感染症
9	口腔内の常在菌叢
１０	口腔内の細菌感染症と関連疾患
１１	顎顔面、口腔領域に関連するウイルス感染症
１２	その他のウイルス感染症１
１３	その他のウイルス感染症２
１４	滅菌と消毒、感染管理
１５	化学療法の基礎知識
１６	定期試験と解説

科　目	生化学(栄養学)	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時間数	３２
		履修年次	１学年
		実施学期	２学期
教 員 名	和気　創	教員区分	一般教員

教 科 書	「人体の構造と機能２ 栄養と代謝」全国歯科衛生士教育協議会　監修(医歯薬出版)
参 考 書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	休まず授業に臨むこと。

科目の目標	生体の構成成分の代謝過程を理解し、口腔生化学およびう蝕、歯周病などの口腔疾患の生化学を学ぶ。栄養素の働きや代謝過程を理解し、適正な栄養摂取に関する知識を習得する。
授業概要	生体を構成する様々な物質の特徴や代謝過程を学び、その知識に基づいて口腔生化学の知識を習得する。栄養素の働きや意義を学び、食生活と健康との関わりを理解する。

日程

回　数	授業内容
1	生体の構成要素
2	糖質、脂質の種類と代謝
3	アミノ酸、タンパク質の種類と代謝、DNA と遺伝子
4	ミネラルとビタミンの働きと欠乏症、栄養素の消化と吸収
5	生体の恒常性の維持
6	歯と歯周組織(結合組織)
7	歯と歯周組織(歯)
8	硬組織の生化学
9	唾液の生化学
１０	味覚
１１	プラークの生化学(う蝕)
１２	プラークの生化学(歯周病)
１３	栄養の基礎知識、食事摂取基準
１４	栄養素の働き
１５	食生活と健康
１６	定期試験/解答・解説

科　目	衛生学・公衆衛生学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時間数	３２
		履修年次	１学年
		実施学期	２学期
教 員 名	熊澤　真理子	教員区分	一般教員

教 科 書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み１　保健生態学　第２版」 全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業に教科書を必ず持ってくること。 遅刻せず、休まず出席すること。

科目の目標	地域保健・公衆衛生の基礎的な知識を習得する。 各ライフステージにおける法律や制度について知る。
授業概要	各ライフステージにおける法律や制度について、教科書に沿って学習する。

日程

回　数	授業内容
1	総論・国際保健
2	人口
3	健康と環境　①
4	健康と環境　②
5	感染症　①
6	感染症　②
7	食品と健康
8	地域保健と公衆衛生
9	母子保健
１０	学校保健
１１	成人保健
１２	産業保健
１３	精神保健・災害時の歯科保健
１４	疫学
１５	総括
１６	定期試験/解答・解説

科　目	歯周病学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	３２
		履修年次	１学年
		実施学期	２学期
教員名	南澤　直子	教員区分	一般教員

教科書	「歯周疾患歯周治療　第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参考書	特になし 授業プリントを適宜配布する
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	ただの暗記にとどまらず、より理解を深めるために自主的・積極的に授業に臨むこと

科目の目標	歯周病治療は臨床においても歯科衛生士の果たす役割が非常に大きく、やりがいを感じることのできる分野である。基本的知識からしっかりと身につけることを目標とする。
授業概要	授業は教科書をベースに、適宜プリントやスライドを用いて説明していく。

日程

回　数	授業内容
1	歯周治療とは
2	正常な歯周組織の構造と機能
3	歯周疾患の原因
4	歯周治療の進め方
5	歯周組織の診査
6	歯周基本治療
7	歯周外科治療（1）
8	歯周外科治療（2）
9	前半のまとめと復習
１０	歯周治療としてのリハビリテーション
１１	メインテナンス
１２	歯周治療における歯科衛生士の役割（1）
１３	歯周治療における歯科衛生士の役割（2）
１４	歯周治療における歯科衛生士の役割（3）
１５	後半のまとめと復習
１６	定期試験/解答・解説

科　目	歯科予防処置実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	64
		履修年次	1学年
		実施学期	2・3学期
教 員 名	久間　雅代	教員区分	実務教員

教 科 書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	適宜指示あり。
成績評価	実技試験・出席・身だしなみ・授業態度・提出物を総合して評価する。
留意事項	・歯科衛生士に不可欠な器具の授業となるので欠席しないこと。 ・身だしなみをしっかり整え、忘れ物がないようにし、医療従事者になるという自覚を持って授業に臨むこと。実技試験は3学期に実施する。

科目の目標	・口腔内情報収集の方法を知り、実践できる。 ・相互実習を行う中で、患者を思いやる心や協力する態度を養い、各自の技術の向上に努める。
授業概要	・歯科予防処置で使用する器具・機械を衛生的で安全、かつ適切に使用できるよう、マネキン実習・相互実習を通して習得する。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に基本的な臨床力を身につけさせる。

日程

回　数	授業内容
1	オリエンテーション、実習室の使用方法・清掃方法①
2	実習室の使用方法・清掃方法②
3	口腔内の情報収集、口腔内検査①
4	口腔内の情報収集、口腔内検査②
5	口腔内の情報収集、口腔内検査③
6	口腔内の情報収集、口腔内検査④
7	口腔内の情報収集、口腔内検査⑤
8	口腔内の情報収集、口腔内検査⑥
9	口腔内の情報収集、歯周組織検査①
10	口腔内の情報収集、歯周組織検査②
11	口腔内の情報収集、歯周組織検査③
12	口腔内の情報収集、歯周組織検査④
13	口腔内の情報収集、歯周組織検査⑤

１４	口腔内の情報収集、歯周組織検査⑥
１５	口腔内の情報収集、歯周組織検査⑦
１６	口腔内の情報収集、歯周組織検査⑧

科　目	歯科保健指導Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	１６
		履修年次	１学年
		実施学期	２学期
教員名	関　奈々子	教員区分	一般教員

教科書	「歯科保健指導論　第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参考書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み１　保健生態学　第３版」 全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	基礎となり実習へとつながっていくので休まず出席し、よく予習復習すること。

科目の目標	口腔衛生管理を行うために必要な知識、技術および態度を習得する。
授業概要	各ライフステージ別の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健行動を説明でき、口腔衛生指導を学習する。

日程

回　数	授業内容
1	ライフステージに対応した歯科衛生介入①
2	ライフステージに対応した歯科衛生介入②
3	ライフステージに対応した歯科衛生介入③
4	ライフステージに対応した歯科衛生介入④
5	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑤
6	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑥
7	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑦
8	定期試験/解答・解説

科　目	歯科保健指導実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	３２
		履修年次	１学年
		実施学期	２学期
教 員 名	枝川 祥子	教員区分	実務教員

教 科 書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論　第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修(医歯薬出版)　他、適宜指示する。
参 考 書	適宜指示あり。
成績評価	実技試験・出席・授業態度・身だしなみ・提出物を総合して評価する。
留意事項	１学期に歯科保健指導・口腔衛生学にて習得した知識を再確認し、実習に臨む。

科目の目標	歯科保健指導とは何かを知り、人々に対し、歯・口腔の健康の維持・増進を支援するために必要な基本的知識と技術および態度を習得する。
授業概要	歯科保健指導に必要な基本的技術、医療面接をマネキン実習・相互実習を通して習得する。

実務経験	歯科衛生士の業務に４年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に基本的な臨床力を身に付けさせる。

日程

回　数	授業内容
1	オリエンテーション
2	歯科衛生介入としての歯科保健指導①
3	歯科衛生介入としての歯科保健指導②
4	歯科衛生介入としての歯科保健指導③
5	歯科衛生介入としての歯科保健指導④
6	歯科衛生介入としての歯科保健指導⑤
7	歯科衛生介入としての歯科保健指導⑥
8	歯科衛生介入としての歯科保健指導⑦
9	歯科衛生介入としての歯科保健指導⑧
１０	歯科衛生介入としての歯科保健指導⑨
１１	歯科衛生介入としての歯科保健指導⑩
１２	歯科衛生介入としての歯科保健指導⑪
１３	歯科衛生介入としての歯科保健指導⑫
１４	歯科衛生介入としての歯科保健指導⑬
１５	実技試験
１６	実技試験/解答・解説

科　目	歯科診療補助Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	１６
		履修年次	１学年
		実施学期	２学期
教 員 名	猪俣　理恵	教員区分	一般教員

教 科 書	最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論第２版」 最新歯科衛生士教本「歯科機器」
参 考 書	第４版イラストでわかる歯科材料の基礎
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	１学期に履修した歯科診療補助Ⅰ、歯科診療補助実習Ⅰでの内容をしっかり復習して臨むこと。

科目の目標	さまざまなライフステージにおける高度歯科医療に対応するために、専門的な歯科診療の補助に関する基礎知識を身につける。
授業概要	歯科における医療安全を円滑に進めるため、必要となる歯科衛生士の役割を理解し、それに関する基礎知識を学習する。

日程

回　数	授業内容
1	歯科医療における歯科診療補助
2	歯科診療で扱う歯科材料①
3	歯科診療で扱う歯科材料②
4	歯科診療で扱う歯科材料③
5	歯科診療で扱う歯科材料④
6	歯科診療における基礎知識①
7	歯科診療における基礎知識②
8	定期試験/解答・解説

科　目	特別教養科目 （接遇・作法）	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単 位 数	1
		時間数	１６
		履修年次	１学年
		実施学期	２学期
教 員 名	岡田　稔仁	教員区分	一般教員

教 科 書	講師作成のハンドアウト
参 考 書	特になし。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	講義の受講のみならず、実技演習も行う。予習・復習に勤しむこと。 受講マナーを遵守して授業に臨むこと。

科目の目標	職場の現場で働くスタッフが、ホスピタリティの本当の意味を理解し、日常業務の中で接遇とマナー溢れる行動をとれるようにする。
授業概要	事前課題を提示するので、講義前から自分の「ホスピタリティの感性」を確認し、当日の講義をより効果的にする。講義/実技/ディスカッションの体験型研修により“腹落ち“して実践できるようにする。参加者同士のコミュニケーションを活性化し、より多くの「事例」とその「考え方」を共有し、柔軟性のある対応を身につけるようにする。

日程

回　数	授業内容
1	はじめに (1)接遇・作法とは？ (2)なぜ、ホスピタリティは大切か？ / ホスピタリティは難しいこと？ (3)「お・も・て・な・し」 / 世界が見る日本のおもてなし文化
2	ホスピタリティとは？その１ (1)ホスピタリティの概念 ①ホスピタリティとサービスの違い ②日本流ホスピタリティ：日本の生活文化、地域社会に根づいたホスピタリティ
3	ホスピタリティとは？その２ (2)ホスピタリティ・マインド(おもてなしの心)：21 世紀はホスピタリティ社会 (3)ノーマライゼーションと高齢化社会
4	ホスピタリティの感性を磨く【ディスカッション：事前課題】 (1)心温まるちょっといい話　(2)記憶に残る良いサービスと悪いサービス
5	ホスピタリティの企業事例 (1)カスタマーフォーカス　(2)マナーの徹底　(3)ひとの心が動く時 (4)その他の取り組み事例
6	ホスピタリティの自己表現 その１ (1)基本マナー(マナーとは？/身だしなみ/挨拶・お辞儀/表情) (2)立ち居振る舞い(心構え/基本動作/スマートな身のこなし)
7	ホスピタリティの自己表現 その２ (3)言葉遣い(敬語/間違いやすい敬語/ホスピタリティのある話し方・聞き方) (4)電話応対の基本　(5)ビジネスメールの基本
8	定期試験/解答・解説

科　目	小児歯科学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	三輪　全三	教員区分	一般教員

教科書	「小児歯科学」新谷 誠康　編集（永末書店）
参考書	「小児歯科学 第2版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「ポイントチェック 第5版 歯科衛生士国家試験対策④」（医歯薬出版）
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	授業内容について教科書で予習・復習をすること。 毎回、授業の範囲でプレテスト・ポストテストを行う。

科目の目標	小児歯科学の概要を理解し、歯科衛生士として小児歯科臨床に必要な知識・技術・態度を修得する。
授業概要	小児歯科学について学習する。写真と図を見ながら実践的な手技を理解する。

日程

回　数	授業内容
1	1. 小児歯科学とは　2. 心身の発育　3. 頭蓋と顎の成長発育
2	4. 歯の発育と異常　5. 歯列および咬合の発育と異常
3	6. 歯科口腔保健管理　7. 小児への歯科的対応　8. 小児の歯科疾患
4	9. 小児歯科診療の基本　10. 診察・検査　11. 小児歯科における局所麻酔
5	12. 小児の歯冠修復　13. 歯内療法
6	14. 外科的処置　15. 外傷の処置　16. 咬合誘導
7	17. う蝕の予防処置と進行抑制　18. リコール（定期健診）　（補）. 小児の虐待
8	定期試験/解答・解説

科　目	歯科予防処置論　Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教 員 名	デンタルサポート(株)　城　明妙	教員区分	一般教員

教 科 書	歯科予防処置論・歯科保健指導論　第2版 2021年3月10日第2版第2刷（増補）発行
参 考 書	特に指定しない
成績評価	毎回行う確認テスト及び定期試験で評価する
留意事項	忘れ物をしないように心掛け、予習復習をしっかり行い授業に臨むこと

科目の目標	歯科衛生介入としての予防処置について実務に生かせるような基礎的知識を習得する。
授業概要	歯科予防処置を歯科衛生士として実施するために必要な基礎的知識を習得する

日程

回　数	授業内容
1	小窩裂溝填塞法について　/　確認テスト
2	手用スケーラーの形態と応用①　/　確認テスト
3	手用スケーラーの形態と応用②　/　確認テスト
4	パワー(機械的)スケーラーの特徴と用途　/　確認テスト
5	PTCとPMTC・歯面清掃器　/　確認テスト
6	キュレットスケーラーの選択について　/　確認テスト
7	総まとめ　/　確認テスト
8	定期試験/解答・解説

科　目	歯科補綴学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	１６
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	南澤　直子	教員区分	一般教員

教科書	咀嚼障害・咬合異常「歯科補綴」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参考書	授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	3学期はコマ数が少なく進度が速いので、各自予習して授業に臨んで下さい。

科目の目標	歯科の重要な分野のひとつである歯科補綴の全容と各論について学ぶ
授業概要	それぞれの補綴装置の特徴と利点欠点をいえるようになる

日程

回　数	授業内容
1	歯科補綴の概要
2	補綴歯科治療の基礎知識
3	補綴歯科治療における検査
4	クラウン・ブリッジ治療
5	有床義歯治療
6	インプラント治療
7	特殊な口腔内装置を用いる治療、補綴歯科治療における器材の管理
8	定期試験/解答・解説

科　目	歯科予防処置実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	64
		履修年次	1学年
		実施学期	2・3学期
教 員 名	久間　雅代・上野真梨子	教員区分	実務教員

教 科 書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	適宜指示あり。
成績評価	実技試験・出席・身だしなみ・授業態度・提出物を総合して評価する。
留意事項	・歯科衛生士に不可欠な器具の授業となるので欠席しないこと。 ・身だしなみをしっかり整え、忘れ物がないようにし、医療従事者になるという自覚を持って授業に臨むこと。 ・実技試験は3学期に実施する。

科目の目標	・歯石除去の操作の基礎を習得する。 ・相互実習を行う中で、患者を思いやる心や協力する態度を養い、各自の技術の向上に努める。
授業概要	・歯科予防処置で使用する器具・機械を衛生的で安全、かつ適切に使用できるよう、マネキン実習・相互実習を通して習得する。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に基本的な臨床力を身につけさせる。

日程

回　数	授業内容
1	オリエンテーション、実習室の使用方法
2	歯石除去のための器具・機械①
3	歯石除去のための器具・機械②
4	歯石除去のための器具・機械③
5	歯石除去のための器具・機械④
6	歯石除去のための器具・機械⑤
7	歯石除去のための器具・機械⑥
8	歯石除去のための器具・機械⑦
9	歯石除去のための器具・機械⑧
10	歯石除去のための器具・機械⑨
11	歯石除去のための器具・機械・総復習①
12	歯石除去のための器具・機械・総復習②
13	歯石除去のための器具・機械・総復習③

１４	実技試験
１５	実技試験
１６	実技試験の解答解説

科　目	保存修復学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	１６
		履修年次	１学年
		実施学期	３学期
教員名	菅野　文雄	教員区分	一般教員

教科書	「歯の硬組織・歯髄疾患　保存修復学・歯内療法学」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参考書	授業プリント（パワーポイントファイル）を適宜配布する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	現時点で予習は難しい科目なので復習に重点を置いて、臨床実習の際に見直してほしい

科目の目標	歯牙硬組織の疾患及びその治療方法の臨床実習に即した知識を習得する
授業概要	歯牙硬組織の疾患と治療方法を学習する．

日程

回　数	授業内容
1	保存修復学とは　歯牙硬組織の疾患（う蝕性、非う蝕性）
2	窩洞について　歯の切削器具（レーザーを含む）
3	動画（直接法修復）直接法修復（コンポジットレジン、グラスアイオノマー）
4	動画（間接法修復）間接法修復（合着材、接着材含む）　動画（CAD CAM）
5	口腔内審査
6	オムニバス（ラミネートベニア、知覚過敏　漂白など）　動画（漂白）
7	到達度試験の解説 ※動画に関しては内容、回数に変更の可能性あり
8	定期試験/解答・解説

科　目	歯内療法学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	１６
		履修年次	１学年
		実施学期	３学期
教員名	熊澤　真理子	教員区分	一般教員

教科書	「最新歯科衛生士教本　歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参考書	授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	毎回の授業に教科書を必ず持参すること。

科目の目標	歯内療法学を学び、知識を持って診療補助の能力を修得する。
授業概要	歯内疾患の症状や治療法の概要を学習する。 歯内療法に使用するは多くの治療用器材・器具を学習する。 歯内療法の診療補助をスムーズに行うことができる。

日程

回　数	授業内容
1	歯内療法の概要
2	歯髄保存療法
3	歯髄の除去療法
4	根管治療
5	根管充填
6	外科的歯内療法・歯の外傷
7	歯内療法における安全対策・歯のホワイトニング
8	定期試験/解答・解説

科　目	歯科矯正学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	１６
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	小堀　理恵	教員区分	一般教員

教科書	「歯科矯正学」新・歯科衛生士教育マニュアル　監修（クインテッセンス出版）
参考書	配布プリント
成績評価	定期試験により評価する。
留意事項	矯正治療の概要から成り立ちを理解し、定義や知識と概念、チーム歯科医療の一員として歯科衛生士の役割を理解すること。

科目の目標	矯正歯科治療での歯科衛生士の役割を説明できる。不正咬合の種類や治療に必要な器具・機材を説明できる。
授業概要	矯正歯科治療に関する基礎および臨床における知識を習得する。

日程

回　数	授業内容
1	矯正歯科治療の概要・基礎知識
2	矯正歯科診断
3	矯正装置・矯正歯科治療と力
4	矯正歯科治療の実際
5	矯正歯科器材
6	矯正歯科臨床における衛生士の役割・口腔筋機能療法
7	これまでのまとめ
8	定期試験/解答・解説

科　目	臨床検査法	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時間数	１６
		履修年次	２学年
		実施学期	１学期
教 員 名	守谷 友二朗	教員区分	一般教員

教 科 書	「臨床検査」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験（マークシート形式）にて評価する。
留意事項	教科書を中心に予習、復習を行い、国家試験合格のための基礎力をつけること。

科目の目標	歯科衛生士にとって必要な臨床検査について習得する。
授業概要	歯科衛生士にとって重要なポイントを中心に解説する。

日程

回　数	授業内容
1	第１章　臨床検査とは・生体検査(体温検査・脈拍検査・血圧検査)
2	第２章　生体検査(心機能検査・肺機能検査・筋電図検査・脳波検査・血中酸素濃度検査)
3	第３章　検体検査①(血液を用いる検査)
4	第３章　検体検査②（免疫血清検査～）
5	第４章　口腔領域の臨床検査
6	第５章　摂食嚥下関連の検査　主な疾患・病態別検査値の捉え方と総まとめ　前編
7	主な疾患・病態別検査値の捉え方と総まとめ　後編
8	定期試験/解答・解説

科　目	総合講義	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	1
		時間数	１６
		履修年次	１学年
		実施学期	３学期
教員名	猪俣　理恵　・上野　真梨子	教員区分	一般教員

教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	休まず出席すること。期限内に提出物を提出するよう心掛ける。

科目の目標	臨床実習について理解し、歯科衛生士として必要な知識・態度を習得する。
授業概要	来年度の臨床実習に向け必要知識・態度について学ぶ。

日程

回　数	授業内容
1	臨床実習に向けての学習①
2	臨床実習に向けての学習②
3	臨床実習に向けての学習③
4	臨床実習に向けての学習④
5	臨床実習に向けての学習⑤
6	臨床実習に向けての学習⑥
7	臨床実習に向けての学習⑦
8	定期試験　解答と解説

科　目	医療人間科学Ⅱ	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時間数	１６
		履修年次	２学年
		実施学期	１学期
教 員 名	菅野　眞由美	教員区分	一般教員

教 科 書	「歯科英語」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	「ひとこと英会話 in the Dental Clinic」（デンタルハイジーン）
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	英単語並びに実践英会話をしっかりと声に出し発音する事に留意して授業に臨むこと。

科目の目標	実践的な歯科診療の場面に沿った英会話並びに専門的英単語を習得する。
授業概要	上記の英会話、専門的英単語を紹介し、授業にて実際に発音し、会話の練習をしていく。

日程

回　数	授業内容
1	英単語の学習（歯の名称、部位の名称、口腔解剖用語、歯科医療に携わる者）
2	英単語の小テスト、英単語の学習（歯科学）、ひとこと英会話（電話で予約を受け付けよう）
3	英単語の小テスト、英単語の学習（検査）、ひとこと英会話（問診）
4	英単語小テスト、英単語の学習（痛みの種類）、ひとこと英会話（スケーリング）
5	英単語小テスト、ひとこと英会話（薬剤、内服薬）
6	英単語小テスト、ひとこと英会話（ブラッシング）
7	英単語小テスト、前期総復習
8	定期試験の解答と解説

科　目	医療人間科学Ⅲ	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時間数	１６
		履修年次	２学年
		実施学期	１学期
教 員 名	菅野　眞由美	教員区分	一般教員

教 科 書	「歯科英語」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	「ひとこと英会話 in the Dental Clinic」（デンタルハイジーン）
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	英単語並びに実践英会話をしっかりと声に出し発音する事に留意して授業に臨むこと。

科目の目標	実践的な歯科診療の場面に沿った英会話並びに専門的英単語を習得する。
授業概要	上記の英会話、専門的英単語を紹介し、授業にて実際に発音し、会話の練習をしていく。

日程

回　数	授業内容
1	英単語の学習（全身疾患）、ひとこと英会話（術後、診療後の指示）
2	英単語小テスト、英単語の学習（歯科疾患）、ひとこと英会話（シーラント）
3	英単語小テスト、英単語の学習（歯科治療）、ひとこと英会話（印象採得）
4	英単語小テスト、ひとこと英会話（X線写真）
5	英単語小テスト、ひとこと英会話（受付での会話、フレーズ集）
6	英単語小テスト、ひとこと英会話（チェアサイドでの会話、フレーズ集）
7	英単語小テスト、後期総復習
8	定期試験の解答と解説

科　目	薬理学（歯科薬理学）	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時間数	３２
		履修年次	２学年
教 員 名	久保山　昇	実施学期	１学期

教 科 書	「疾病の成り立ち及び回復過程の促進３」薬理学：第２版（医歯薬出版） 歯科衛生士国家試験問題集（医歯薬出版）
参 考 書	授業プリントは適宜配布・指示する。
成績評価	定期試験（100%）によって評価点とする。
留意事項	講義で理解不十分なところは、授業終了後に対応する。

科目の目標	薬がどのような薬理作用を生体に及ぼし、効果を現すのかを明らかにするとともに、歯科診療で繁用される医薬品についても正しい知識を身につける。
授業概要	総論は、薬理作用、薬物動態および副作用の基本的な知識を身につける。各論は、疾患別に薬物の種類、作用機序および適応症について学習する。

日程

回　数	授業内容
1	総論①：薬物の作用について学習する。(2p～10p)
2	総論②：薬物動態および薬物動態のパラメーターについて学習する。(11p～21p)
3	総論③：薬物の適用方法と薬理作用に影響を与える要因について学習する。(22p～36p)
4	総論④：薬物の副作用および有害作用について学習する。(37p～43p)
5	総論⑤：ライフステージに応じた服薬指導と医薬品について学習する。(44p～64p)
6	末梢神経系に作用する薬物について学習する。(73-80p)
7	中枢神経系に作用する薬物について学習する。(81-92p)
8	循環器系、腎臓および呼吸器系に作用する薬物について学習する。(93-108p)
9	消化器系および血液に作用する薬物について学習する。(109-117p)
１０	代謝性疾患治療薬および炎症と薬について学習する。(129-143p)
１１	痛みと薬および局所麻酔薬について学習する。(144-158p)
１２	抗感染症薬について学習する。(159-169p)
１３	消毒に使用する薬について学習する。(170-180p)
１４	う蝕予防薬および歯内療法薬について学習する。(181-190p)
１５	歯周疾患治療薬および顎・口腔粘膜疾患と薬について学習する。(191-203p)
１６	定期試験および定期試験の解答を説明する。

科　目	衛生統計学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	３２
		履修年次	２学年
		実施学期	１学期
教員名	渡部　亜希	教員区分	一般教員

教科書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み３　保健情報統計学」 全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参考書	授業プリントは適宜配布・指示する。
成績評価	定期試験および小テストにて評価する。
留意事項	講義内容のメモを取るように心がけ、また正しい計算ができるようになること。

科目の目標	高度な医療を提供するために、膨大な情報の中から必要な情報を取捨選択し、活用する方法を身につける。
授業概要	歯科衛生士として得た情報を口腔内の疾病予防、健康増進に活用する方法を学ぶ。

日程

回　数	授業内容
1	衛生統計学①
2	衛生統計学②
3	衛生統計学③
4	衛生統計学④
5	衛生統計学⑤
6	歯科疾患の指標①　小テスト
7	小テスト解説
8	歯科疾患の指標②
9	歯科疾患の指標③
１０	歯科疾患の指標④
１１	歯科疾患の指標⑤
１２	歯科疾患の指標⑥
１３	歯科保健統計
１４	歯科の疫学
１５	まとめ
１６	定期試験の解答と解説

科　目	高齢者歯科学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	３２
		履修年次	２学年
		実施学期	１学期
教 員 名	櫻井　薫	教員区分	一般教員

教 科 書	「高齢者歯科　第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	資料の配布、「高齢者歯科学　第３版」（永末書店）
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	安易な遅刻欠席はしないよう心がけ、復習をしっかり行い授業に臨むこと。

科目の目標	高齢者に対する歯科衛生士業務を適切に実施するために必要な知識を習得することを目的に、我が国の高齢者を取り巻く状況、加齢変化・老化、高齢者の身体・精神・社会的特徴、主要な疾病と歯科治療時の対応法および高齢者の歯科診療の特徴について学ぶ。また、高齢者の口腔機能の評価法、口腔機能の維持・向上、口腔機能管理および口腔機能のリハビリテーションについても学習する。
授業概要	高齢者歯科医療を安全かつ円滑に行うために必要となる歯科衛生士の役割を理解し、それに関する基礎知識を学習する。

日程

回　数	授業内容
1	高齢者をとりまく社会と環境―社会環境
2	高齢者をとりまく社会と環境―社会保障
3	加齢による全身の変化―加齢と老化、組織器官の変化、身体機能の変化
4	加齢による精神・心理的機能の変化、口腔領域の変化
5	高齢者における口腔疾患―う蝕、歯周疾患、口腔粘膜疾患
6	高齢者における口腔疾患―口腔乾燥、口臭、その他の疾患
7	高齢者の状態の把握―高齢者と臨床検査
8	高齢者の状態の把握―医療情報、全身疾患の評価と対応
9	高齢者の状態の把握―特別な配慮を必要とする患者への対応
１０	高齢者歯科医療の場―通院困難者、往診と訪問診療
１１	口腔衛生管理―口腔衛生管理の視点から見た高齢者の口腔内環境、口腔環境の評価法
１２	口腔衛生管理―口腔環境の管理の実際
１３	摂食嚥下障害とリハビリテーション―摂食嚥下機能のメカニズム
１４	摂食嚥下障害とリハビリテーション―摂食嚥下機能の評価・診断、摂食嚥下障害への対応
１５	介護予防、施設高齢者における「口腔ケアマネジメントの実際」、 在宅における口腔健康管理、栄養指導・食支援
１６	定期試験と解説

科　目	歯科予防処置実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	６４
		履修年次	２学年
		実施学期	１学期
教 員 名	久間　雅代	教員区分	実務教員

教 科 書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	「歯周病学　第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
成績評価	実技試験、出席、身だしなみ、授業態度、提出物を総合的に評価する。
留意事項	歯科衛生士に不可欠な器具の授業となるので欠席しないこと。 身だしなみをしっかり整え、忘れ物がないようにし、医療従事者になるという自覚を持って授業に臨むこと。

科目の目標	手用スケーラー、超音波スケーラー、エアスケーラーの正しい「知識・用途・技能」を身につける。部位に適したキュレットスケーラーを選択することができる。
授業概要	歯科予防処置で使用する器具・機械を衛生的で安全、かつ適切に使用できるよう、マネキン実習・相互実習を通して習得する。

実務経験	歯科衛生士の業務に４年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に基本的な臨床力を身につけさせる。

日程

回　数	授業内容
１・２	オリエンテーション　　手用スケーラー①
３・４	手用スケーラー②
５・６	手用スケーラー③
７・８	手用スケーラー④
９・１０	手用スケーラー⑤
１１・１２	手用スケーラー⑥
１３・１４	手用スケーラー⑦　　歯面研磨のための器具・機械①
１５・１６	手用スケーラー⑧　　歯面研磨のための器具・機械②
１７・１８	手用スケーラー⑨　　歯面研磨のための器具・機械③
１９・２０	手用スケーラー⑩　　歯面研磨のための器具・機械④
２１・２２	超音波スケーラー・エアスケーラー①　歯面研磨のための器具・機械⑤
２３・２４	超音波スケーラー・エアスケーラー②　歯面研磨のための器具・機械⑥
２５・２６	実技試験前の総復習　小窩裂溝填塞法　歯面研磨のための器具・機械⑦

２７・２８	実技試験
２９・３０	実技試験の解答と解説　フッ化物歯面塗布法　歯面研磨のための器具・機械⑧
３１・３２	総復習　超音波スケーラー・エアスケーラー③　歯面研磨のための器具・機械⑨

科　目	歯科保健指導Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	１６
		履修年次	２学年
		実施学期	１学期
教 員 名	大谷　悦世	教員区分	一般教員

教 科 書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	必要に応じ指示する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	歯科衛生士に不可欠な授業となるので欠席しないこと。

科目の目標	様々な対象者の特性を知り、対象者に寄り添った歯科保健指導を行うための知識を身につける。
授業概要	歯科保健指導を実施するために必要な知識を習得する。

日程

回　数	授業内容
1	対象者別の歯科衛生介入①
2	対象者別の歯科衛生介入②
3	対象者別の歯科衛生介入③
4	対象者別の歯科衛生介入④
5	対象者別の歯科衛生介入⑤
6	対象者別の歯科衛生介入⑥
7	対象者別の歯科衛生介入⑥
8	定期試験/定期試験の解答と解説

科　目	歯科保健指導実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	３２
		履修年次	２学年
		実施学期	１学期
教 員 名	関　奈々子	教員区分	実務教員

教 科 書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	授業プリントは適宜配布・指示する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	歯科衛生士を目指すが学生として正しい知識を身につけ、医療従事者になるという自覚を持ち授業に臨むこと。

科目の目標	対象者に合わせた歯科保健指導を行う為に実践を身につけ、保健・医療・福祉に関わる意義と歯科衛生士の役割を理解する。
授業概要	対象者に合わせた歯科保健指導を学ぶ。

実務経験	歯科衛生士としての実務経験あり。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に基本的な臨床力を身につけさせる。

日程

回　数	授業内容
1	健康教育について
2	歯科衛生過程演習①
3	歯科衛生過程演習②
4	歯科衛生過程演習③
5	基本的支援技術①
6	基本的支援技術②
7	基本的支援技術③
8	基本的支援技術④
9	基本的支援技術⑤
１０	基本的支援技術⑥
１１	基本的支援技術⑦
１２	基本的支援技術⑧
１３	介護職について
１４	媒体作成①
１５	媒体作製②
１６	定期試験/解答・解説

科　目	歯科診療補助Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	３２
		履修年次	２学年
		実施学期	１学期
教 員 名	猪俣　理恵	教員区分	一般教員

教 科 書	「歯科診療補助論　第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	「スマホで学ぼう！歯科診療の補助コンプリート BOOK　共同動作編 Part1」（一世出版） 「スマホで学ぼう！歯科診療の補助コンプリート BOOK　共同動作編 Part2」（一世出版）
成績評価	小テスト、定期試験を総合して評価する。
留意事項	歯科診療補助実習と併せて進めていくため、総合的に学習すること。 １年次に学習した内容をよく復習して臨むこと。

科目の目標	各診療科目において使用する、歯科材料・歯科器具の用途を理解、習熟し、臨床の場で対応できる知識を身につける。
授業概要	専門的な歯科診療補助のために基礎知識を習得する。

日程

回　数	授業内容
1	歯科診療室における基礎知識
2	歯科診療で扱う歯科材料①
3	歯科診療で扱う歯科材料②
4	歯科診療で扱う歯科材料③
5	歯科臨床と診療補助①
6	歯科臨床と診療補助②
7	歯科臨床と診療補助③
8	歯科臨床と診療補助④
9	歯科臨床と診療補助⑤
１０	歯科臨床と診療補助⑥
１１	歯科臨床と診療補助⑦
１２	歯科臨床と診療補助⑧
１３	歯科臨床と診療補助まとめ
１４	周術期における歯科診療の補助・歯科訪問診療における対応
１５	定期試験
１６	定期試験の解答と解説

科　目	歯科診療補助実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	３２
		履修年次	２学年
		実施学期	１学期
教 員 名	猪俣　理恵	教員区分	実務教員

教 科 書	「歯科診療補助論　第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	「スマホで学ぼう！歯科診療の補助コンプリート BOOK　共同動作編 Part1」（一世出版） 「スマホで学ぼう！歯科診療の補助コンプリート BOOK　共同動作編 Part2」（一世出版）
成績評価	実技試験、出席、身だしなみ、授業態度、提出物を総合的に評価する。
留意事項	歯科診療補助Ⅲと併せて進めていく。時間を有効に使い、また実習内で協力し合いチームワークも学習する。また、欠席しないよう、体調管理に気を配ること。さらに、１年次に学習した内容をよく復習して臨むこと。

科目の目標	各診療科目において使用する、歯科材料・歯科器具の用途を理解、習熟し、臨床の場で対応できる知識、技術及び態度を身につける。
授業概要	マネキン及び学生相互による実技実習を行う。

実務経験	歯科衛生士の業務に４年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に臨床の応用力を身につけさせる。

日程

回　数	授業内容
1	歯科診療で扱う歯科材料①
2	歯科診療における基礎知識①
3	歯科診療で扱う歯科材料②
4	歯科診療で扱う歯科材料③
5	歯科診療で扱う歯科材料④
6	歯科診療で扱う歯科材料⑤
7	歯科診療で扱う歯科材料⑥
8	歯科診療で扱う歯科材料⑦
9	歯科臨床と診療補助①
１０	歯科臨床と診療補助②
１１	歯科臨床と診療補助③
１２	歯科臨床と診療補助④
１３	歯科診療における基礎知識②

１４	歯科診療における基礎知識③
１５	実技試験
１６	実技試験の解答と解説

科　目	総合講義	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単 位 数	1
		時 間 数	１６
		履修年次	２学年
		実施学期	１・２学期
教 員 名	柏井　伸子　歯科衛生学科教員	教員区分	一般教員

教 科 書	特に指定しない。
参 考 書	特に指定しない。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	休まず出席すること。

科目の目標	臨床実習について理解し、歯科衛生士として必要な知識・態度を習得する。
授業概要	臨床実習に向け必要知識・態度について学ぶ。

日程

回　数	授業内容
1	臨床実習に向けての学習①
2	臨床実習に向けての学習②
3	臨床実習に向けての学習③
4	臨床実習に向けての学習④
5	臨床実習に向けての学習⑤
6	臨床実習に向けての学習⑥
7	臨床実習に向けての学習⑦
8	臨床実習に向けての学習⑦

科　目	口腔外科学・歯科麻酔学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	３２
		履修年次	２学年
		実施学期	２学期
教 員 名	本橋　佳子	教員区分	一般教員

教 科 書	「顎・口腔粘膜疾患　口腔外科・歯科麻酔」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参 考 書	特になし。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	視覚資料を多用するため、視力が悪い者は必ず視力矯正具を持参すること。 ノートをきちんととること

科目の目標	口腔外科疾患の種類・特徴等が分類できること。各種麻酔法・救急蘇生法を含め、歯科領域における全身管理や偶発症等への対応を理解すること。
授業概要	歯科衛生士にとって必要な口腔外科学（歯科麻酔学含む）について学習する。

日程

回　数	授業内容
1	口腔外科学の概要　　歯科治療で問題となる基礎疾患と対応
2	顎・口腔領域の化膿性炎症疾患
3	顎・口腔領域の嚢胞性疾患
4	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患、唾液腺疾患
5	顎・口腔領域の損傷および機能障害
6	顎・口腔領域の先天異常と発育異常
7	口腔領域の神経疾患　口腔粘膜の病変
8	口腔外科診療の実際①　外科的歯内療法
9	口腔外科診療の実際②　歯周外科処置
１０	口腔外科診療の実際③　消炎処置、抜歯術
１１	歯科治療における歯科麻酔と患者管理：麻酔に必要な解剖学　局所麻酔①
１２	歯科治療における歯科麻酔と患者管理：局所麻酔②　精神鎮静法
１３	歯科治療における歯科麻酔と患者管理：全身麻酔　救急蘇生法
１４	周術期口腔管理　総合病院での歯科の役割
１５	まとめ　テスト対策
１６	定期試験/解答と解説

科　目	歯科放射線学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	2学年
		実施学期	2学期
教 員 名	村上　昌隆	教員区分	一般教員

教 科 書	「歯科放射線　第1版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業の予習・復習を心がけ、分からないところは積極的に質問をおこなうようにする。

科目の目標	放射線に関する正しい知識を習得し、歯科臨床において業務に従事するための基礎的な学力を身につける。
授業概要	放射線発生装置の構造・原理・取り扱い方法を理解し、安全かつ円滑に業務を行うため歯科衛生士としての役割を学習する。

日程

回　数	授業内容
1	歯科におけるエックス線検査①
2	歯科におけるエックス線検査②
3	エックス線撮影時の実際と歯科衛生士の役割①
4	エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割②
5	歯科医療と放射線①
6	歯科医療と放射線②
7	試験対策
8	定期試験/解答と解説

科　目	歯科予防処置Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	１６
		履修年次	２学年
		実施学期	２学期
教 員 名	藤森　瑠依	教員区分	一般教員

教 科 書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論　第２版」 全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	適宜、授業プリントを配布する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	体調管理に気を配り、休まず出席すること。

科目の目標	専門基礎分野の知識も踏まえ、予防処置の方法、応用を考えることができる。 歯科衛生士に不可欠な器具のメインテナンス方法を習得する。
授業概要	今まで学習した講義や実習と関連づけながら歯科予防処置について学ぶ。

日程

回　数	授業内容
1	歯科衛生介入に向けての学習①
2	歯科衛生介入に向けての学習②
3	歯科衛生介入に向けての学習③
4	歯科衛生介入に向けての学習④
5	歯科衛生介入に向けての学習⑤
6	歯科衛生介入に向けての学習⑥
7	歯科衛生介入に向けての学習⑦
8	定期試験/解答と解説

科　　目	臨地実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	１２
		時 間 数	５４０
		履修年次	２学年
		実施学期	２・３学期
教 員 名	全教員	教員区分	実務教員

教 科 書	配布済みの全教本
参 考 書	「2021 年度 6 期生　第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期臨床実習要綱」
成績評価	出席、実習記録、指導者評価表により評価する。
留意事項	遅刻欠席せず実習に臨む。守秘義務を遵守する。実習記録は不備なく作成し、訂正も最後まで完了させること。また、提出物の期限は厳守すること。

科目の目標	基礎知識・技能を発展させるために、患者や施設スタッフとコミュニケーションを取りながら、自発的に実践に必要な知識・技術・態度を修得する。
授業概要	指定された地域の一般歯科医院にて臨床実習として週に４回実習を行う。 実践実習、実習記録の作成を日々行い、臨床の現場で学ぶ。

日程

別マニュアルに定める

科　目	医療人間科学Ⅳ	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	３２
		履修年次	３学年
		実施学期	１・２学期
教 員 名	デンタルサポート株式会社　・　川島　貴重	教員区分	一般教員

教 科 書	なし（授業時にプリントを配布する。）
参 考 書	授業プリント、および適宜案内する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	遅刻、欠席をしないこと。

科目の目標	現在の社会で役に立てる医療人になるために必要な知識を習得する。
授業概要	様々な分野の講師による講義で、現在の社会、医療の場に必要な知識を学ぶ。

日程

回　数	授業内容
1	医療人として社会で活躍するために必要となる知識①
2	医療人として社会で活躍するために必要となる知識②
3	医療人として社会で活躍するために必要となる知識③
4	医療人として社会で活躍するために必要となる知識④
5	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑤
6	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑥
7	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑦
8	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑧
9	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑨
１０	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑩
１１	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑪
１２	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑫
１３	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑬
１４	まとめと総復習
１５	定期試験
１６	定期試験 / 定期試験の解答と解説

科　目	歯科介護学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	１６
		履修年次	３学年
		実施学期	１学期
教 員 名	歯科衛生学科教員	教員区分	一般教員

教 科 書	各
参 考 書	特に指定しない。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	科目横断的な分野になるので、予習復習をしっかりと行いのぞむこと

科目の目標	多職種協働を行う為に、必要な知識を身につける。
授業概要	多職種との連携の意義を学ぶ。

日程

回　数	授業内容
1	歯科介護学概要(地域医療・地域保健における他職種との連携
2	歯科衛生士に必要な全身管理の基礎知識
3	歯科衛生士に必要な介護現場の基礎知識①
4	歯科衛生士に必要な介護現場の基礎知識②
5	歯科衛生士に必要な介護現場の基礎知識③
6	介護現場での口腔衛生管理の目的、基礎知識
7	介護現場での患者状態別の注意点、記録作成の基礎知識
8	定期試験と解答、解説

科　目	摂食嚥下リハビリテーション学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	3学年
		実施学期	1学期
教 員 名	山口　絢香	教員区分	一般教員

教 科 書	「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション」 公益社団法人　日本歯科衛生士会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	講師作成の資料を配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	口腔の解剖学・生理学的な知識を復習しておくこと。

科目の目標	歯科衛生士と摂食・嚥下の関わりについての理解を深める。
授業概要	摂食・嚥下リハビリテーションに関する基礎的知識・技術を学ぶ。

日程

回　数	授業内容
1	総論/口腔・咽頭・喉頭の解剖と生理／摂食嚥下機能の発達と食育
2	小児・成人・高齢者の摂食嚥下障害と、歯科衛生士によるケア
3	歯科衛生士の行う口腔ケアの効果と実際
4	摂食嚥下障害における訓練
5	摂食嚥下障害に対する食指導・食支援
6	合併症等のリスクマネジメントとチーム医療
7	総復習
8	定期試験 / 定期試験の解答と解説

科　目	歯科予防処置実習Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	３２
		履修年次	３学年
		実施学期	１・２学期
教 員 名	畑山　範子	教員区分	実務教員

教 科 書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	「歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
成績評価	実技試験・出席・身だしなみ・授業態度・提出物を総合して評価する。
留意事項	欠席・遅刻せず、正しい身だしなみで出席する。清潔・不潔の区別と安全に注意する。

科目の目標	診療室内の患者状況を想定し患者情報の守秘義務・感染対策・安全管理に留意した歯科予防処置を行う。安全に歯科予防処置を行うために、状況を判断し正しく機械操作を行う。
授業概要	臨床実習での経験を発展させ、歯科衛生士としての歯科予防処置実践能力を高める。

実務経験	歯科衛生士の業務に４年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に総合的な臨床力を身につけさせる。

日程

回　数	授業内容
1	オリエンテーション
2	歯科予防処置の実践①
3	歯科予防処置の実践②
4	歯科予防処置の実践③
5	歯科予防処置の実践④
6	歯科予防処置の実践⑤
7	歯科予防処置の実践⑥
8	歯科予防処置の実践⑦
9	歯科予防処置の実践⑧
１０	歯科予防処置の実践⑨
１１	歯科予防処置の実践⑩
１２	歯科予防処置の実践⑪
１３	歯科予防処置の実践⑫
１４	総復習
１５	実技試験
１６	実技試験の解答と解説

科　目	歯科診療補助実習Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	３２
		履修年次	３学年
		実施学期	１・２学期
教 員 名	畑山　範子	教員区分	実務教員

教 科 書	「歯科診療補助論　第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）、その他適宜指示する
成績評価	実技試験で評価する。
留意事項	欠席・遅刻せず、正しい身だしなみで出席する。清潔・不潔の区別と安全に注意する。

科目の目標	診療室内の患者状況を想定し患者情報の守秘義務・感染対策・安全管理に留意した診療補助を行う。診療の補助としての指導及び処置といった業務の意味を理解し、実践できる。
授業概要	臨床実習での経験を発展させ、歯科衛生士としての歯科診療補助実践能力を高める。

実務経験	歯科衛生士の業務に４年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に総合的な臨床力を身につけさせる。

日程

回　数	授業内容
1	オリエンテーション
2	診療補助としての指導と処置①
3	診療補助としての指導と処置②
4	診療補助としての指導と処置③
5	診療補助としての指導と処置④
6	診療補助としての指導と処置⑤
7	診療補助としての指導と処置⑥
8	診療補助としての指導と処置⑦
9	診療補助としての指導と処置⑧
１０	診療補助としての指導と処置⑨
１１	診療補助としての指導と処置⑩
１２	診療補助としての指導と処置⑪
１３	診療補助としての指導と処置⑫
１４	総復習
１５	実技試験
１６	実技試験の解答と解説

科　目	保険請求事務	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時間数	１６
		履修年次	３学年
教 員 名	時々輪　智恵子	実施学期	１学期

教 科 書	歯科保険請求マニアル（医歯薬出版）、歯科衛生士と法律・制度（医歯薬出版）
参 考 書	
成績評価	実技試験・出席・を総合して評価する。
留意事項	電卓を用意して下さい。

科目の目標	・医療保障制度の体系を理解し、医療保険制度の歯科医療分野における保険治療の算定を学ぶ。 ・カルテから治療内容を保険病名に結び付け、保険点数化してレセプト作成ができる知識を習得する。
授業概要	・歯科医療保険制度を理解する。 ・歯科保険請求マニアルの治療症例別に、歯科治療内容を点数化する作業をしながらレセプトを作成する。

日程

回　数	授業内容
1	医療保障制度の概要と医療保険について
2	初診・再診・指導
3	C処置
4	小児う蝕予防処置・P処置
5	根管治療・歯冠補綴
6	手術・欠損補綴（ブリッジ、義歯）
7	総まとめ（総合問題）レセプト総括
8	定期試験・解答・解説

科　目	臨地実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	8
		時 間 数	３６０
		履修年次	３学年
		実施学期	１学期
教 員 名	全教員	教員区分	実務教員

教 科 書	配布済みの全教本
参 考 書	特に指定しない。
成績評価	出席、実習記録、指導者評価表により評価する。
留意事項	遅刻欠席せず実習に臨む。守秘義務を遵守する。実習記録は不備なく作成し、訂正も最後まで完了させること。また、提出物の期限は厳守すること。

科目の目標	症例に合わせた診療補助・口腔保健管理を実践するために、器具・薬剤・術式・指導に対応できる知識・技術・態度を修得する。歯科医療施設について理解を深め、歯科衛生士に求められる役割を理解する。
授業概要	指定された地域の一般歯科医院や施設にて、臨床実習として週に４回実習を行う。 実践実習、実習記録の作成を日々行い、臨床の現場で学ぶ。

実務経験	歯科医師、歯科衛生士の業務に４年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に総合的な臨床力を身につけさせる。

日程

別マニュアルに定める

科　目	総合科目	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単 位 数	１０
		時 間 数	１６０
		履修年次	３学年
		実施学期	１，２学期
教 員 名	竹之内　茜・大谷　悦世他	教員区分	一般教員

教 科 書	「スマホで学ぼう！歯科診療の補助コンプリートBOOK　Part1」木下淳博　監修（一世出版） 「スマホで学ぼう！歯科診療の補助コンプリートBOOK Part2」木下淳博　監修（一世出版） 「高齢者歯科　第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「障害者歯科　第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「歯科予防処置論・歯科保健指導論第２版」全国歯科衛生士協議会　監修（医歯薬出版） 「歯科診療補助論　第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「歯の硬組織・歯髄疾患　保存修復・歯内療法」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「歯周病学　第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「小児歯科」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「人体の構造と機能２　栄養と代謝」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「咀嚼障害・咬合異常１　歯科補綴　第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「顎・口腔粘膜疾患　口腔外科・歯科麻酔」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「人体の構造と機能１　解剖学・組織発生学・生理学」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「歯科矯正学」アイン・歯科衛生士教育マニュアル　監修（クインテッセンス出版） 「保健情報統計学」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「保健生態学　第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「歯科衛生学総論」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「咀嚼障害・咬合異常１　歯科補綴学第２版」　全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	授業資料を適宜配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	3年間の総まとめとして、自主的、積極的に習得する。

科目の目標	歯科衛生士としての総合的な知識、柔軟な思考を身に着ける。
授業概要	1～3年で履修した内容の総復習。

日程

回　数	授業内容
1	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ1
2	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ2
3	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ3

4	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ4
5	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ5
6	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ6
7	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ7
8	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ8
9	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ9
１０	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ10
１１	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ11
１２	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ12
１３	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ13
１４	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ14
１５	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ15
１６	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ16
１７	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ17
１８	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ18
１９	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ19
２０	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ20

２１	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ21
２２	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ22
２３	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ23
２４	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ24
２５	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ25
２６	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ26
２７	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ27
２８	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ28
２９	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ29
３０	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ30
３１	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ31
３２	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ32
３３	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ33
３４	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ34
３５	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ35
３６	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ36
３７	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ37
３８	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ38
３９	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ39

４０	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ40
４１	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ41
４２	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ42
４３	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ43
４４	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ44
４５	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ45
４６	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ46
４７	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ47
４８	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ48
４９	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ49
５０	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ50
５１	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ51
５２	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ52
５３	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ53
５４	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ54
５５	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ55
５６	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ56

５７	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ57
５８	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ58
５９	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ59
６０	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ60
６１	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ61
６２	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ62
６３	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ63
６４	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ64
６５	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ65
６６	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ66
６７	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ67
６８	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ68
６９	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ69
７０	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ70
７１	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ71
７２	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ72
７３	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ73
７４	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ74
７５	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ75

７６	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ 76
７７	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ 77
７８	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ 78
７９	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ 79
８０	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ 80

科　目	歯科衛生士概論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	１６
		履修年次	３学年
		実施学期	２学期
教 員 名	竹之内　茜	教員区分	一般教員

教 科 書	「衛生・公衆衛生・口腔衛生・社会福祉・関係法規　パッと見ておぼえられる　まとめテーブル２０２０」（一世出版）
参 考 書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する
留意事項	体調管理に留意し、遅刻・欠席をしないように努めること。

科目の目標	歯科衛生業務を実践して人びとの健康づくりを支援するために、知識・技術を習得する態度を修得する。
授業概要	歯科衛生士としての知識と理解を深め、応用力をつけていく。

日程

回　数	授業内容
1	歯科衛生学について①
2	歯科衛生学について②
3	歯科衛生学について③
4	歯科衛生学について④
5	歯科衛生学について⑤
6	歯科衛生学について⑥
7	歯科衛生学について⑦
8	定期試験/解答・解説、授業総括

科　目	先端歯科医療学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	3学年
		実施学期	2学期
教 員 名	片岡　有　・　川島　貴重	教員区分	一般教員

教 科 書	配布資料
参 考 書	特に指定しない。　※適宜、参考となる参考書を案内する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	予習・復習を心がけ、講義および実習中は積極的に疑問点を解決するようにすること。

科目の目標	大きく変革している医療界の中で、口腔に関わる医療人の一員として活躍できる歯科衛生士になることを目指す。
授業概要	歯科医療の現状と新しい考え方（講義）と技術（実習）を学び、自ら学ぶことができる基本的考え方を学修する。

日程

回　数	授業内容
1	概要、歴史
2	情報リテラシー、文献検索法
3	光学印象採得（講義・実習）①（協力：株式会社ワールドラボ）
4	光学印象採得（講義・実習）②（協力：株式会社ワールドラボ）
5	口腔インプラント治療（講義・実習）①（協力：日本ピストンリング株式会社）
6	口腔インプラント治療（講義・実習）②（協力：日本ピストンリング株式会社）
7	歯科医療のデジタル化、デジタルデンティストリー
8	歯科診療所の経営（協力：医療法人社団夢仁会 中村歯科医院）
9	歯科診療所を取り巻く環境①（ディーラー、歯科技工所、歯科技工士）
10	歯科診療所を取り巻く環境②（ディーラー、歯科技工所、歯科技工士）
11	口腔内サプリメント（協力：株式会社NRLファーマ、オハヨー乳業株式会社）
12	オーラルフレイルと口腔機能低下症（講義・実習）①（協力：東京都健康長寿医療センター）
13	オーラルフレイルと口腔機能低下症（講義・実習）②（協力：東京都健康長寿医療センター）
14	歯科医療の展望①
15	歯科医療の展望②
16	定期試験/解答・解説、授業総括

科　目	歯科保健指導実習Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	３２
		履修年次	３学年
		実施学期	２学期
教 員 名	大谷　悦世	教員区分	実務教員

教 科 書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参 考 書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み１　保健生態学　第２版」 全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	体調管理に留意し、遅刻・欠席をしないように努めること。

科目の目標	歯科衛生教育活動の場で指導するために、必要な専門知識、技術および態度を習得する。
授業概要	対象者に合った健康教育の指導案を作成し、実践に向けた準備を行う。

実務経験	歯科衛生士の業務に４年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に総合的な臨床力を身につけさせる。

日程

回　数	授業内容
1	健康教育の進め方
2	集団に対する健康教育指導①
3	集団に対する健康教育指導②
4	集団に対する健康教育指導③
5	集団に対する健康教育指導④
6	集団に対する健康教育指導⑤
7	集団に対する健康教育指導⑥
8	集団に対する健康教育指導⑦
9	集団に対する健康教育指導⑧
１０	集団に対する健康教育指導⑨
１１	集団に対する健康教育指導⑩
１２	集団に対する健康教育指導⑪
１３	集団に対する健康教育指導⑫
１４	集団に対する健康教育指導⑬
１５	集団に対する健康教育指導⑭
１６	定期試験/解答・解説、授業総括

科　目	総合学習	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単 位 数	１０
		時 間 数	１６０
		履修年次	３学年
		実施学期	２，３期
教 員 名	竹之内　茜・大谷　悦世	教員区分	一般教員

教 科 書	「衛生・公衆衛生・口腔衛生・社会福祉・関係法規　パッと見ておぼえられるまとめテーブル 2022」松久保隆他(一世出版) 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「歯科予防処置論・歯科保健指導論第２版」全国歯科衛生士協議会　監修（医歯薬出版） 「歯科診療補助論　第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「スマホで学ぼう！歯科診療の補助コンプリート BOOK　Part1」木下淳博　監修（一世出版） 「スマホで学ぼう！歯科診療の補助コンプリート BOOK Part2」木下淳博　監修（一世出版） 「高齢者歯科　第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「障害者歯科　第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「歯の硬組織・歯髄疾患　保存修復・歯内療法」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「歯周病学　第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「小児歯科」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「人体の構造と機能２　栄養と代謝」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「咀嚼障害・咬合異常１　歯科補綴　第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「顎・口腔粘膜疾患　口腔外科・歯科麻酔」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「人体の構造と機能１　解剖学・組織発生学・生理学」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「歯科矯正学」アイン・歯科衛生士教育マニュアル　監修（クインテッセンス出版） 「保健情報統計学」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「保健生態学　第２版」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「歯科衛生学総論」全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「咀嚼障害・咬合異常１　歯科補綴学第２版」　全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版） 「摂食嚥下の機能解剖」阿部伸一(医歯薬出版)
参 考 書	授業資料を適宜配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	3 年間の総まとめとして、自主的、積極的に習得する。

科目の目標	歯科衛生士としての総合的な知識、柔軟な思考を身に着ける。
授業概要	1～3 年で履修した内容の総復習。

日程

回　数	授業内容

1	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 1
2	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 2
3	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 3
4	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 4
5	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 5
6	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 6
7	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 7
8	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 8
9	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 9
１０	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 10
１１	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 11
１２	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 12
１３	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 13
１４	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 14
１５	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 15
１６	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 16
１７	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 17
１８	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 18
１９	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 19
２０	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 20
２１	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 21
２２	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 22
２３	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 23
２４	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 24
２５	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 25
２６	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 26
２７	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 27
２８	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 28
２９	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 29
３０	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 30
３１	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 31
３２	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 32
３３	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 33
３４	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 34
３５	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 35
３６	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 36

３７	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 37
３８	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 38
３９	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 39
４０	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 40
４１	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 41
４２	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 42
４３	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 43
４４	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 44
４５	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 45
４６	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 46
４７	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 47
４８	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 48
４９	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 49
５０	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 50
５１	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 51
５２	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 52
５３	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 53
５４	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 54
５５	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 55
５６	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 56
５７	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 57
５８	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 58
５９	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 59
６０	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 60
６１	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 61
６２	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 62
６３	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 63
６４	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 64
６５	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 65
６６	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 66
６７	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 67
６８	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 68
６９	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 69
７０	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 70
７１	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 71
７２	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 72

７３	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 73
７４	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 74
７５	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 75
７６	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 76
７７	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 77
７８	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 78
７９	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 79
８０	臨床歯科医学/歯・口腔と予防に関わる仕組みの総まとめ 80